



【2017-12-27】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、

人生を味わう

今種の雑感

『よく遊び、良く寝る、そして
いたずらし放題の子犬 と、
主人はどっち、という妻！』

長野修二

よく遊び、良く寝る、そしていたずらし放題の子犬と、主人はどっち、という妻！

子犬の1日はよく遊び、よく寝るにつきるのでしょうか。

そして数々のいたずらをやらかします。

朝6時に起きるとご飯を食べて、すぐにアクセル全開でエンジンは唸っています。

走る、噛む、あらゆるものをめがけて突進するといったことが毎日でしょうか。

しかも、遊びのおもちゃにすぐに飽きて、いたるところでいたずら道具を探しまくり、戦闘モードで遊びがはじまります。

追いかけるように「ダメ」としきり、しかったと思えば、次のターゲットを目指しまっしぐら。

いわゆるいたちごっこ状態でしょうか。

そんな状況の中で捕まえてゲージに入れようものなら、ゲージの中のトイレシートは引きちぎり、自分の寝床はひっくり返すわで、こちらの寿命はちじまります。

また、自分のおもちゃでもしばらくはひとりであそびますが、そのうちに飽きて、飼い主（主人）のところへもってきては、いっしょに遊ぼうとかわいらしく呼びかけます。

妻に言わせると、犬に使われているのよ、わかってる？

もうちょっとどっしりと構えて、無視しなさいと、言われますが、そういわれているそばから、くーんと泣き、あるいはワンと吠えては、私を誘ってきます。

それはまるでぬいぐるみが話をしているようでとてもかわいらしい姿なのです。

そして、また子犬に使われてしまうことになるのです。

そのうえ、遊び疲れて眠くなると、私の膝のうえにあがってきてゆつたりと、ときにお腹を丸出しにして心地よく寝ています。

まったく、どちらが主人かわからないと、妻に嘆かれます。

あなたのしつけが、この子の性格を作っているのよと、苦言を呈されますが、この主従関係の逆転はなかなかむずかしいものがあります。

1か月はこのような状況が続いていたでしょうか。

一か月過ぎたある日、子犬の甘噛みはしようとゆるしていましたが、噛む力が強くなってきたため、こちらの手や耳たぶなどに痛み

があり、ときに傷がつくようになりました。

妻にも牙をむくし、これはこのままの状態では、犬にとってもこの先人間とよい関係ができないと考えて、自分でこれらの情報を調べたり、かかりつけの獣医さんに相談したりしてけじめをつける訓練が必要だ、ということがわかりました。

噛むためのおもちゃや道具は与えていますが、人の手も同じようにみているようなので、噛んだら「おこる」、「少したたく」、「口をふさぐ」、「無視する」というようなことをそれぞれやってみましたが、「無視して遊びをやめる」という方法がこの子には一番よいということがわかりました。

ある程度のいたずらは、ゆるしていますが、また、いたずらされでは困るものは部屋から移しています。

それでも危ないものは、囲いをつけてガードしていますので、部屋にあるものは噛まれてもしょうがないと割り切るようにしていました。それでも妻は、食卓のテーブルの脚や椅子の布部分をかじると怒りますので、私もどうよにおこらざるを得ません。

ただし、これまでと違いかなり太い声で力ずよくおこることでいたずらをやめるようになってきました。

また、餌やおやつを与えるときに「おすわり」、「まて」、「よし」、「ふせ」という命令をすることで主従関係を明確にしています。

さらに散歩にでかけるための訓練としてリードをつけて歩く練習をし、さらにブラシや歯磨き、あるいは「まて」と指示を出して、部屋からでて私の用事をすませるまで犬を待たせるといったことで主従関係ができてきました。

獣医さんからもしっかりと主従関係を理解させておかなければ、犬のほうが不幸になるので、人間が迫力を出してしかることが必要だと、アドバイスをもらい、それを実行しています。

トイレやお昼寝、あるいは夜はよく寝ますし、鳴くこともなく非常に育てるのが楽でしょうか。

トイレは1週間で覚えましたし、1か月経つと、ウンチも寝起きにす

るという習慣ができてきているので先代のワンちゃんよりもお利口さんだと、妻は言います。

しぐさはそれぞれの子犬が元来もっているものでしょうが、先代と違ったわいらしいさがあります。

人に好かれる要素をたくさんもっていますので、いかに人に嫌われるしぐさをやめさせられるかどうかにかかっています。

とにかく頭と運動神経がよいのである程度のいたずらと人間におこなう甘噛みをやめさせるだけなのですが、子犬といえど子育ては、つくづく根気がいるものだとわかりました。

ときには、感情的になっておこりますが、妻から犬に感情的になってもしょうがないでしょうと、言われ、落ち込みます。

しかし、あまりの悪さに、また、感情的になる自分がいるのです。

これが感情的にならないでいられるものか、とひとり心の中でつぶやくのでした。

それでも少しづつ子犬が理解してくれて、しつけができてきているのが救いでしょうか。

また、子犬が理解してくれたとき、それが子犬の子育ての喜びなのかわもわかりません。

まだまだ、お散歩ができるようになるまで先が思いやられる今日この頃です。